

●川崎市産業振興財団退任、妻の眼底出血など ○一年十二月

古希過ぎて保守派市長に仕える苦勞 心ひそかに引退を決す

(雑誌『正論』新年号の市長インタビュー記事を読んで)

側近に耳貸さぬ前市長は固陋(ころう)なり 単騎出馬しすべて失う

美濃部飛鳥田長洲とも引退の時期誤れり 権力病に保革はなきか

二十年わが髪刈りし理髪師は 脳梗塞にて手足動かさず

「都合により閉店」と張り紙出せる理髪店 師走の街の小さなドラマ

喜寿翁が中国三千キロ踏破して もはや途上国に非ずと断ず

(横浜日中友好協会パーティーでMさんと会う)

南北の朝鮮統一ならざれば 北東亜の平和はなしと喜寿翁が説く

豆満江の開発に必要と喜寿翁は ロシア語学ぶ喜び語る

眼底に出血せる妻伴いて 眼科救急に心せくわれ(〇二年三月二十六日)

長年の苦勞かけたる妻なれば 検査室の前に肅然と佇つ

老いるとは緩慢なる拷問か 眼と齒に続き脚力落ちる

陸軍の看護婦なりしわが姉は 戦後はなんと米軍病院

(船の都合で中国戦線に行けず、命拾いした姉も間もなく米寿という)

トツパンでレッドパーズの弟は 何故かいつしか地方銀行

(銀行務めの傍ら俳句の会を主宰していたが、七四歳で逝った)

劇団も釣り道具店もままならず 失意のうちに事故死せる末弟よ

(四歳のとき母の葬儀で集まった人に喜び、歌を唱い涙を誘っていた)